



30

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2020年11月29日号

編集／毎日新聞社販売局D・クリエイションセンター



熊本の被爆2世

12月6日(日)=1面、ストーリー一面



熊本市で平和教育に取り組んでいる元高校教諭の青木栄さん(59)=写真=が、父の辰次さん(2002年に73歳で死去)から「長崎で被爆した」とだけ明かされたのは1984年の夏でした。

原爆投下から39年。この時「おやじはなぜ体験を語らないのか」というわだかまりを覚えました。そんな心のもやを晴らしたのは、親子で長崎を歩いた体験でした。2人で稲佐山に

登り、辰次さんが被爆した長崎駅周辺を見下ろしました。それから数年後。辰次さんからの手紙には、青木さんが初めて知る父の人生が記されていたのです。

特集 ワイド

拉致問題どうする 12月1日(火) =夕刊特集ワイド



「全力で取り組むことを誓う」。北朝鮮による拉致問題を政権の最重要課題に掲げる菅義偉首相は10月24日、拉致被害者の家族らが東京都内で開いた集会の場でこう明言しました。首相に就任して間もなく3カ月。菅首相はいかなる手法で解決

を目指すのでしょうか。参院拉致問題特別委員会に所属する有田芳生参院議員(68)=写真⑤=と、「北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会(救う会)」の西岡力会長(64)=写真⑥=に聞きました。



介護報酬改定の焦点は？ 関係者インタビュー

12月3日(木) くらしナビ面

来年4月から介護サービスの公定価格「介護報酬」が改定されるのを前に、厚生労働省の審議会での議論が大詰めを迎えています。改定は3

より影響も踏まえて、厚労省が改定されるのを前に、厚生労働省の審議会での議論が大詰めを迎えています。改定は3

サービスとは何か。こうした改定の焦点について、関係者2人が語ります。

論点

コロナ罰則付き条例は必要か 12月4日(金)=オピニオン面



東京都議会の最大会派「都民ファーストの会」が30日、新型コロナウイルスの検査命令を拒否した人に対する罰則を盛り込んだ都条例改正案を都議会に議員提案します。他会派には罰則に慎重な意見

も根強く、成立するかは見通せない状況です。条例に必要なのか、作成に関わった都議や感染者患者への差別解消に取り組んできた弁護士らに話を聞きました。

竹橋の窓辺から

編集後記



残り早いもので、今年も12月初めに約1カ月、新型コロナウイルスの二週目に入ります。この時期は、これまで見慣れた風景とは異なり、冬のはじめに、今年も手な私でも、少し寂しく感じます。毎日新聞朝刊では、11月から大型連載「コロナで変わる世界」がスタートしました。このコロナ禍に何を学ぶべきなのか。記事に触れるたびに、「飲みニケーション」の行方も含め、考え続ける日々です。(小野田香織)